

竜山村

地形概況

天竜川をはさむ山地からなり、白倉川は大きい支流である。合流点の瀬尻・西川に谷底低地がやや発達するが全体的に急峻で比高の大きい谷壁斜面をもち、高位置緩斜面に集落が立地する。斜面には線状崩壊地がみられ、支谷は土石流による堆積物が堆積する。

地質概況

光明断層以東の秋葉山一帯は砂岩、泥岩を主とする光明層群からなる。天竜川をはさんで黒色片岩・緑色片岩・泥質片岩と変成岩からなる三波川帯が分布する。三波川帯は南北方向の構造を示し、破碎作用や変質作用で地すべり地や崩壊地を多く含んでいる。

気象概況

年平均気温は推定 14.2℃、年平均降水量が推定 2,600mm 山間盆地は概して風が弱く、日中の気温が高くなるが、夜間の温度との差が大きい。中部山岳地帯の南斜面に位置しているため県内平均降水量より多く、4月から8月にかけて雨の量が多い。

災害事例 地震

- 1944年12月7日（昭和19年）東南海地震 M=7.9
県中・西部で被害があったが、当地では被害は軽微であった。震度は5である。
- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震 M=8.4
県下全般に被害を生じた。当地では軽微で震度は瀬尻・下平山・大嶺などで5である。

災害事例 台風

- 1983年9月28日（昭和58年）台風10号
28日の雨で、竜山村で山崩れにより3人死亡。大雨で県中部を中心に被害あり、28日18時30分ごろ竜山村大嶺で県道が崩れ、3名が崩土とともに西川に転落、死亡した。
- 1968年8月29日（昭和43年）台風10号
全県下特に西部に風水害大であった。秋葉での1時間最大雨量57mm(20時～21時)である。
- 1959年9月26日（昭和34年）伊勢湾(15号)台風
県西部で被害大きく、当地は大嶺で住家全壊47戸、半壊97戸、非住家全壊29棟、半壊46棟の被害を生じた。国道は倒木のため交通が途絶した。
- 1911年8月4日（明治44年）
佐久間町山香での日雨量は、3日114mm、4日444mmに達した。竜山村で家屋30戸余が転落埋没した。
- 1828年8月10日（文政11年）
約1か月天竜川通満水となり堤防決壊し、家屋は流失、田畑も冠水した。増水高は6丈余といわれる。大嶺村西川で鴨居まで水がついた。

- 1789年7月10日（寛政元年）
大雨で天竜川洪水となり、中部村で鴨居まで、瀬尻村では屋根まで水がつくほど浸水した。

災害事例 豪雨

- 1961年6月27日（昭和36年）
秋葉で日雨量352mmを観測した。

災害事例 旱魃

- 1852（嘉永5年）
大日照が寅年まで3か年続いた。
- 1770、1771（明和7・8年）
明和7年夏60日余り雨降らず、作物ばかりか竹や木まで枯れ、飲水にも困った。翌年も同様な日照りだった。
- 1693（元禄6年）
大日照、旧暦5月17日より田植を始め、6月24日迄植えた。
- 1626（寛永3年）
旧暦4月より8月までひでりが続いた。